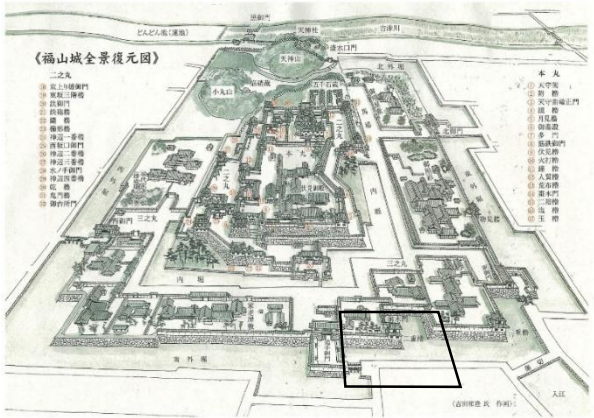
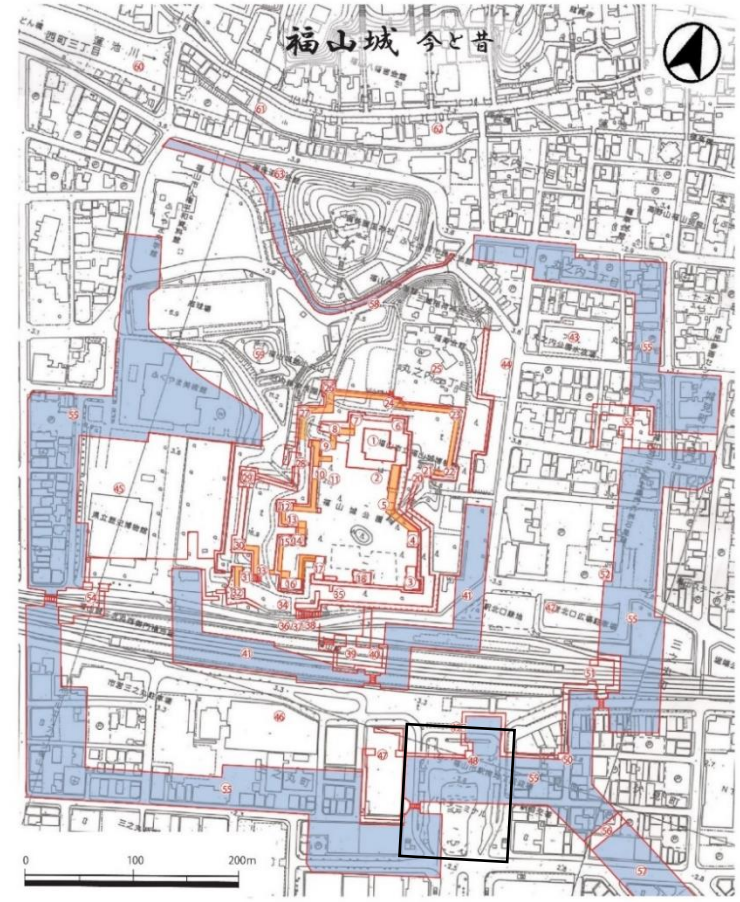


●開催目的
 福山ならではの特徴や魅力を生かした空間の形成をめざし、駅前広場における遺構を生かした空間づくりを検討するため、福山駅前広場協議会分科会（遺構を生かした空間検討）を開催しました。

- 協議会委員
 - ・学識経験者 渡邊一成
 - ・専門家 清水義次, 西村浩
 - ・地域関係者 福山市自治会連合会, 三之丸町町内会, 伏見町町内会
 - ・行政 福山市建設局
- オブザーバー
 - ・福山市文化財保護審議会 佐藤昭嗣, 八幡浩二（敬称略）

●分科会の検討内容（ポイント）

1. 遺構を生かすためにも全面的な広場化をめざすべき
 - ・駅前には交通結節機能が必要。ただし、福山らしさを表現することも求められるため、福山城の遺構を生かした空間づくりは大変重要だ。
 - ・より福山城の遺構を生かすためにも、全面的な広場化をめざしていただきたい。東西に長い駅舎の特徴を生かしながら、交通を再配置することによって、全面的な広場化を実現できると良い。
2. 福山城の中に駅があるという意識に変えていく
 - ・福山城は天守閣だけを指すのではなく、三之丸や二之丸、外堀、もっと言えば入川から瀬戸内海につながるまでのルート、これらを含めて「福山城」と呼ぶべき。これは福山城の特徴でもある。
 - ・福山城は駅舎の北側にあると思っている人が多い。今回の整備により、駅舎の南側に福山城の遺構を表現できれば、福山城の中に駅があるという意識が変わっていく。



【本丸】	①天守	②天守曲輪門	③月見櫓	④櫓	⑤平櫓	⑥玉櫓	⑦櫓	⑧二階櫓	⑨薬木御門	⑩御旗門	⑪御旗門	⑫御旗門	⑬御旗門	⑭御旗門	⑮御旗門	⑯御旗門	⑰御旗門	⑱御旗門	⑲御旗門	⑳御旗門	㉑御旗門	㉒御旗門	㉓御旗門	㉔御旗門	㉕御旗門	㉖御旗門	㉗御旗門	㉘御旗門	㉙御旗門	㉚御旗門	㉛御旗門	㉜御旗門	㉝御旗門	㉞御旗門	㉟御旗門	㊱御旗門	㊲御旗門	㊳御旗門	㊴御旗門	㊵御旗門	㊶御旗門	㊷御旗門	㊸御旗門	㊹御旗門	㊺御旗門	㊻御旗門	㊼御旗門	㊽御旗門	㊾御旗門	㊿御旗門
------	-----	--------	------	----	-----	-----	----	------	-------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

※黒枠は福山駅前広場の概ねの位置

3. 本物を残す。史実に基づかないものはつぐらない。

- あくまでも、文化財は史実に基づいた科学的根拠のある復元が必要。二重櫓に関しては、現状では規模や間取りなどが正確には分かっていないため、復元が難しい。時間をかけて、史実が明らかになっていく中で、復元を検討すべきだろう。
- 「本物を残す。史実に基づかないものはつぐらない。」という基本姿勢を示した方がいい。基本姿勢を決めることで、何かあっても立ち戻ることができる。

4. 時間をかけて、徐々に駅前広場を育てていく

- 駅前広場が整備された後、継続的に研究を進め、史実が明らかになったときに、遺構を復元するなど、駅前広場整備を時間軸を持って進める方が良い。本物が復元されると、その対比によって、まちの深みを感じられるようになると思う。
- 文化財の復元は一朝一夕にはいかない。しかも、史実が全て揃って明らかになるわけではなく、ちくはぐが常に共存する世界。長い期間をかけて復元していくというビジョンを持ちながら、今回はその基盤を整備していくという考え方が良いだろう。徐々に駅前広場を育てていくという考え方があっても良い。
- 基盤整備として、石垣を中心にランドスケープを造り、まずは城郭の中だということが伝わるようにする。そして、その後、継続的に史実を蓄積していき、徐々に復元をする。子ども達はその話に関わりながら大人になっていく。そうした舞台をどのように整えるかという議論を今まさにしているところ。
- 歴史的な観点とは、歴史と現在の対比にある。絶えず歴史は進化し続ける。そして、革新の中に新しい歴史がまた刻まれていく。福山駅前には歴史があり、その足跡が残っている場所。少しずつ時間をかけながら、ゆっくり取り戻していく。そういう再生を歩むことも一つのやり方だろう。

● 史跡福山城跡及び調査区遠景（天満屋からのアングル）



福山駅前広場整備工事（地下送迎場）に伴う第2次発掘調査報告書（2008）より



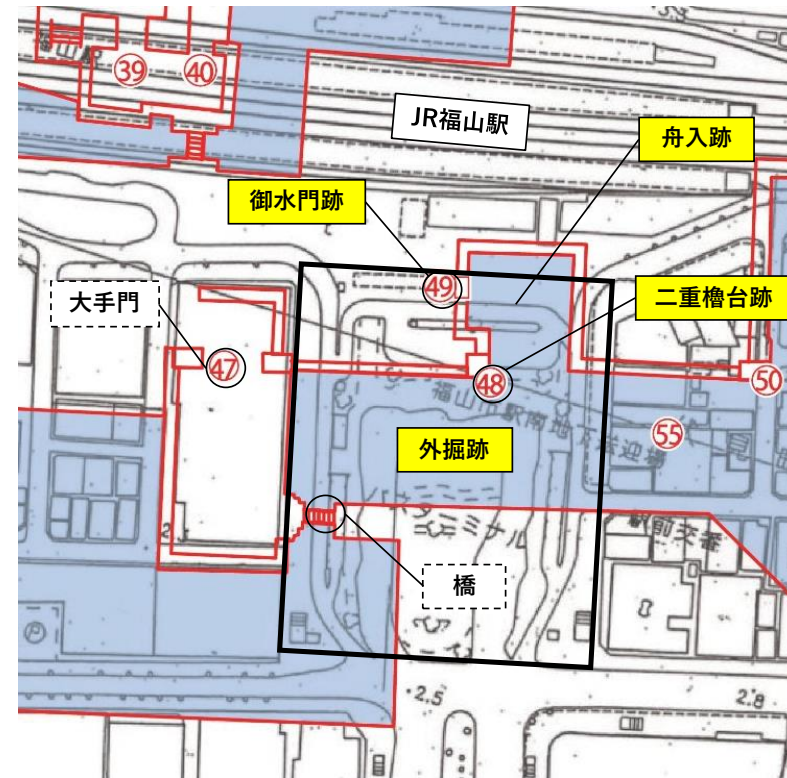
5. 城の特徴を生かしたデザイン

- 現在、復元している石垣の高さは想定の高さ。明治以降の開発によって、石垣の上部は無くなっている。現在の地表面の下に残存する石垣の天端があるが、本来はその上に3m前後くらいの石垣があったと思われる。残存する石垣を見せようとする、地表面に段差が生まれる。
- 広場の活用やバリアフリーも考慮しながら、少しの段差をつけることで、お城の特徴である外堀と内堀のレベル差をデザインしたり、堀とそれ以外の素材を変えるなどのデザインをすることで、お城であることを印象づけられる。
- 駅前広場西側には大手門につながる橋があった。城下の市街地と大手門をつなぐ唯一の通路であり、天守閣への最初の一步となる場所。発掘調査により記録が残っているので、何かしらの方法で表現ができると良いだろう。
- 深いお堀を復元して水を張る場合、水の管理や転落などの安全面に問題がある。お堀があったことは何かの方法で伝えた方が良く、浅い水盤でお堀を表現できれば、子ども達が遊べ、教育として外堀があったことも伝えていくことができる。
- 遺構の復元は維持管理費の問題もある。場合によっては、ホログラフィーによって、二重櫓や外堀を表現する方法もある。継続的に史実を蓄積し、それを反映させながらホログラフィーを進化させていく方法も面白い。時間の経過とともに様々な世代の人々が関わる事ができる仕掛けがあると良い。
- 二重櫓に似せた建物を建てた場合、公衆トイレに間違われる恐れがあるので、似せた建物は建てない方が良い。
- ギリシャの円形劇場のように「実際に遺構を使う」という方法や遺跡の上をガラス張りにしているイタリアのレストランのように「遺構を見て、記憶を呼び起こす」といった方法もあるだろう。
- 駅の南側から天守閣が見えるようになると良いだろう。広場に高い構造物を造らなくても、天満屋などの上層階からの眺めが良い。遺構の活用によって、駅前広場周辺の施設の価値も変わっていくという視点も大切だろう。

●現在の駅前広場に復元している二重櫓台南側の石垣



●駅前広場に埋まっている主な遺構



※埋まっている位置は推測。詳細には発掘調査などによる位置の確認が必要

6. ハードとソフトの両面を生かした使い方

- 遺構だけでなく、「二上りおどり」や「とんど」といった無形文化財も重要。ハードとソフトの両面を生かした使い方ができると良い。

7. 市民全員に関わってもらう

- 遺構の議論をするためには交通の議論も必要になる。遺構の活用を望む市民の方々には、遺構以外の議論にも関心を持っていただき、実現に向けて応援していただきたい。
- 福山駅周辺の再生は福山市全体の再生につながる。これを実現するためには、もっと幅広い方々の参加が必要。市民全員が関わるものになってもらいたい。是非、この輪が広がっていくことを期待している。



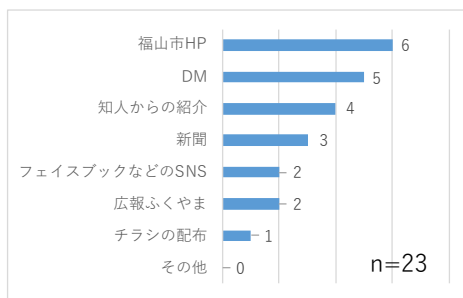
二上りおどり



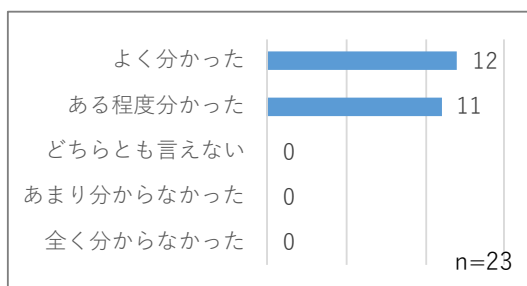
とんど

【アンケート結果】

Q1 どこで本分科会を知りましたか。



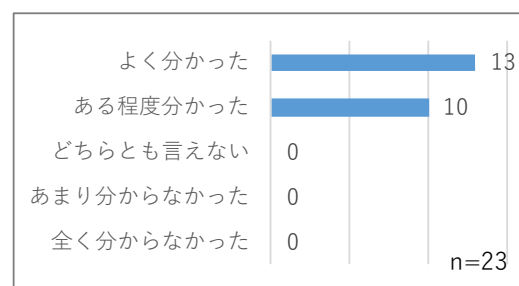
Q2 福山駅前広場の変遷について



(Q2) 自由記入

- 福山駅を二重高架にしたのが、日本で初めてだったことは知らなかった。
- 山陽鉄道が福山城の敷地内に開通したこと。明治には重視されていなかった福山城なのかもしれないが、その後、福山城は市民の誇りのシンボルであり、ランドマークになっていると思う。
- 昭和から令和と時代が変わる中で、駅前広場に求められる価値の変化と課題がある事がよく分かった。
- 福山駅前の憩いの広場と交通結節機能のバランスが難しいと感じた。個人的には、利便性だけが「魅力ある街」に繋がらないと思う。

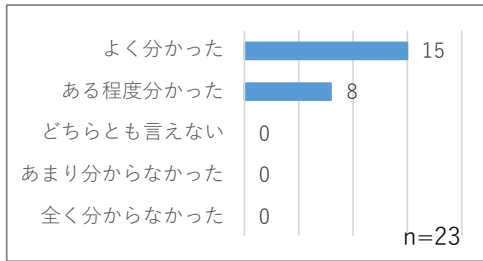
Q3 福山駅周辺取組について



(Q3) 自由記入

- 郊外に大型店が相次いで出来て、福山駅周辺まで行かなくても済むようになったので、駅周辺の賑わいづくりをすることは必要。
- 人口や交通機能を考えると、駅を中心にしたまちづくりを優先していくべき。
- 一般市民には福山駅周辺の取組が伝わっていない。駅周辺全体の構想が大切。
- 天満屋、アイネスを含めた活性化を行ってほしい。
- 観光振興を柱とした政策を推進し、備後圏のみならず、世界から人々が訪れるまちをめざしてほしい。

Q4 福山駅前広場の検討状況について



(Q4) 自由記入

- 駅前が交通の要衝であることを考えなければいけないことは理解できる。
- 市民の意見として全面的な広場にする案が推されていることは意外。そのために伏見町が協力的だったことに驚いた。
- 市民全員の広場になるように、楽しく、福山のことが伝わる駅前広場になると良い。
- 駅前広場を憩いの空間にすることは、住んでいる人だけでなく、旅行者や出張などで訪れた方にとっても、有効に使えるスペースとなるので良い考えだと思う。
- 歩いてショッピング等をして歩きたくなる空間を作ることは良いこと。
- ウォーカブルなまちづくりをめざすのであれば、伏見町に城下町の風情を作り上げてはみてはどうか。雰囲気のある町並みは、歩くだけで楽しいと思う。何でも壊して整備すれば良いわけではない。伏見町はポテンシャルの高い地域だと思う。

Q5 遺構を生かした空間づくりについてご意見やご提案などがありますか。(自由記入)

福山城の中に駅があるという意識に変えていく

- 福山城の大きさを再確認できた。城は駅の北側にあるのではなく、城の中に駅があるという考え方の転換が大切。遺構を生かすことで、駅南北がつながると思う。北口も含めて遺構の活用を検討してほしい。
- 福山駅が福山城内にあるということが伝わる空間にすべきであり、そうすることにより県外や国外からの観光客も呼べて、より福山市が活性化するのではないかと思う。
- 駅前広場を魅力的な空間にするためには、福山城を生かした方が良い。福山城を生かしたまちづくりは、良き日本を守っていくことにも繋がる。未来に何を残したいか、先人が守ってきたものは何なのか改めて考えさせられた。
- 遺構の重要性や遺構を生かす目的を理解していない人は、遺構を生かした空間を求めないのではないか。

本物を残す。史実に基づかないものをつくらない。

- 文化財の復元には科学的な根拠が必要であり、そのためには長い調査期間が必要であることが分かった。調査に時間がかかるのはやむを得ないこと。時間をかけて再生していけばよい。
- 水野勝成が残した歴史を急がず、取り戻していけたら嬉しい。
- しっかりと史実に基づいて復元してもらいたい。
- 遺構が埋められたままで残念に思っていたが、希望を持てた。
- 遺構を生かした駅前を少しずつ実現し、愛される駅前にしたい。

Q5 遺構を生かした空間づくりについてご意見やご提案などがありますか。(自由記入)

城の特徴を生かしたデザイン

- 遺構を生かすべき。遺構を生かした空間づくりに期待している。
- 広場としての機能を発揮させながら、福山城の遺構を生かすことで、福山城の中に駅があることが伝わるデザインにすることは良いことだと思う。
- 高低差のある空間づくりは面白いと思う。最終的にデザインをどうするかで決まると思う。コンペなどを通して広くデザインを募集するのも面白い。
- 堀の内外の高低差や素材の違いを生かすという案は、福山独自の広場として、他にない自慢の広場になると思った。
- 議論を聴くまでは遺構にこだわることなく、新しいものをつくれればよいと思っていたが、議論を聴くと、古いものと新しいものがミックスされた形も良いと思った。交通のことも考慮しながら、遺構のデザインをどう考えるのかは今後の課題。
- 現時点では二重櫓の復元に必要な根拠が揃っていないことが分かった。
- 水の管理や安全面から、深いお堀を復元すること（深い水を張ること）はできないという話だったが、プロジェクションマッピングで水面を地面に投影してはどうか。
- 舟入部の雁木遺構をアクリル等で見えるようにしつつ、表面に水を張ることはできないか。かつての「水辺公園」構想を再検討して欲しい。
- 二重櫓と御水門を復元して欲しい。外堀も可能な限り復元できれば、駅の北側との一体性が生まれる。
- 遺構を生かしたエンターテインメントや、イタリアのレストランなどの事例が興味深かった。福山城や遺構を見ながら楽しめる場所があったら良いと思う。
- 場当たりの整備を行うよりは、デジタルの力で柔軟な活用ができれば良い。橋も生かしてもらいたい。
- “ばら”の生かし方も重要となる。
- 福山市のアピールや集客を目標としての取組なのであれば、どれほどの効果を期待しているのか知りたい。
- 駅前に高い箱物は不必要。遺構を生かした空間づくりにおいて、天守閣が隠れるような高い建物は作らないとの基本姿勢で取り組んでいただきたい。
- 駅舎の名称を福山城駅に変更してもらいたい。
- 寄付でお金を集めて、本丸御殿を復元してもらいたい。

Q6 本分科会に参加して、印象に残ったこと、感じたことはありますか。(自由記入)

- 今後もこのような機会を市民に提供してもらいたい。リアルタイムで情報を公開してもらえると関わりやすい。
- 地道な活動かもしれないが、各地で開催してみてもどうか。
- 今回の話を聴いて、多方面から考える必要があることが改めて分かった。大手門につながる橋が残っていたことや、それが登城する際の入り口であったこと、景観行政の話などが印象に残った。こうした機会をより多く設け、遺構を生かした空間づくりの機運を高めていただきたい。
- 地域の人や専門家の意見を聴くことが出来てよかった。福山愛を感じられた。
- 歴史をよく理解できた。
- 新たな発想が生まれる感じが良かった。
- 400年かけて当時の福山城を復元する再生の進め方は良いと思う。思いもよらない意見をたくさん聴くことが出来た。参加できて良かった。
- 一番心に残ったのは、"時間をかけて良いのでは"という意見。確かに焦る必要はない。次世代を信用し、語り継ぎ、託すというやり方は福山の誇りを継ぎ、日本を愛す心をつなげていくことになると思う。福山は良き日本の姿を保ちつづけてほしい。
- 本物は残す、史実に基づかないものは作らないという考え方がふさわしいと思う。金沢駅や東京駅などのような、第一印象で記憶に残る駅前空間になると良い。
- お城が見えることが大事という意見に大変共感した。昔はお城がどの場所からも見え、城が身近に感じられるまちだったと思う。JRとも協議しながら将来的に再びお城が見える空間に向けた話し合いができると良いと思う。
- 単に保存すれば良いわけではなく、そこに新しい価値を加えていけないといけないという話は新鮮だった。確かに現状で残されている遺構は高架の下にあったり、建物の下にあったりと保存はされているものの活用できていない部分も多いと思う。
- 今の世の中は何でもあって便利ではあるが、あえて不便なのを楽しむという考え方もある。多少、バス乗降場が不便となってもD案で検討していただきたい。
- 地下送迎場建設の強硬さが、市民には根深く残っている。「遺構を生かした」という姿勢が市行政の中で本当に徹底されているのか。ここを強調しない限り、市民の参加意欲は湧かない。
- 駅前広場の地下送迎場の撤去について、適化法等の制約をどこまで検討されているのか。その撤去は今回の検討対象になっているのかが分からない。
- 交通との結節では、伏見町のバスセンター構想が最適だと思うが、検討対象になっているのか。交通との結節は、広場南側に集約することはできないのか。
- 道路の下に埋まっている遺構を発見してみたい。